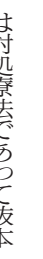


万引対策百般 TOKYO立(だ)ち その20

セキュリティコンパソンを情と知の管理で進める

NPO法人 全国万引犯罪防止機構



9月15日午前7時頃、北朝鮮からミサイルが発射された。タイのジェット機が墜落した。その後、街頭スピーカーが建物の中または地下に避難して下さい」と伝えた。若者達は「どこにも逃げるところはないし、その時はみんな吹っ飛ばすよ」と平気な顔で、虚無と閉塞感が漂っていた。では北朝鮮の一般の人々とはどのような気持ちでいるのだろうか、ミサイル発射を成功だと喜んでいるのだろうか。こういう時ほど民間レベルで交流ができれば何かしらの糸口が見えるはずだが……。こんなとき、あの悪友なら何を考えるだろうか？

さらには本棚からは月刊ホームセンターの2005年10月号の執筆者が来た。その内容には、Sコンの手法に加え、管理者やスタッフのマインドの気持ちは、あるべきところまで持っている。そのアンケート手法のことをアンケート手法として見落としていることに気が付いた。

私は2003年7月から小売業33社の本部担当者が参加するセキュリティセミナーを現成公案塾(げんじょうこうあんじゅく)開始し、各本部担当者からアイデアをいただきながら、これらの実験対象店舗を上げていった。それが有料コンサルティンクや有料運用サポートサポートにつながった。

現在、店舗の防犯診断をしているセキュリティコンサルタンツ企業が10社ほど存在するが、それと比べると、小売業のストアサポート部等の部署の方々の参考になれば幸いである。なお、「情」と「知」の管理に関する方は、『情』と『知』のリーダースhip管理者のための『二大成功原則』(童門冬二著)をお勧めする。

2003年11月イラクへ派遣されていた日本人外交官2人が、日本大使館の車両で移動中、何者かに射殺された。同年12月イラク人道復興支援特別措置法に基づきイラクの人道復興支援活動にあ

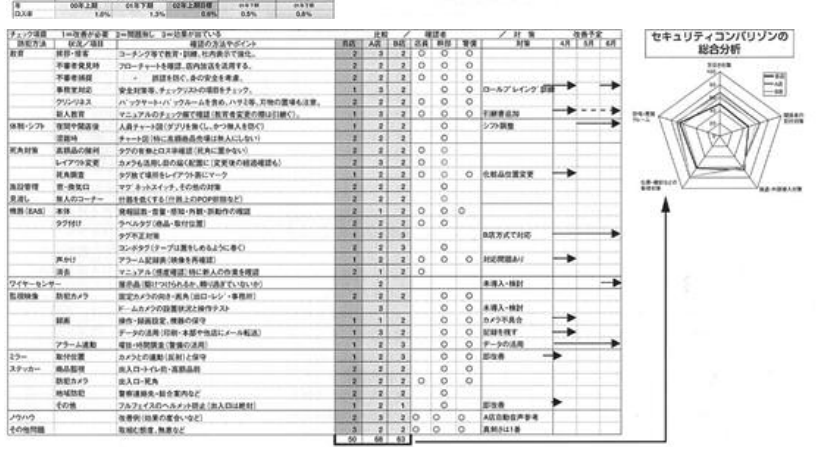
きほど、知の管理と情の管理を織り混ぜ、人と人との間をつなげたい。そうするために必要な量や胆力がなければならない。いや、反対に上図のような活動を積極的に進めたい。それが度量和胆力となっていくのかもしれない。

私は2003年7月から小売業33社の本部担当者が参加するセキュリティセミナーを現成公案塾(げんじょうこうあんじゅく)開始し、各本部担当者からアイデアをいただきながら、これらの実験対象店舗を上げていった。それが有料コンサルティンクや有料運用サポートサポートにつながった。

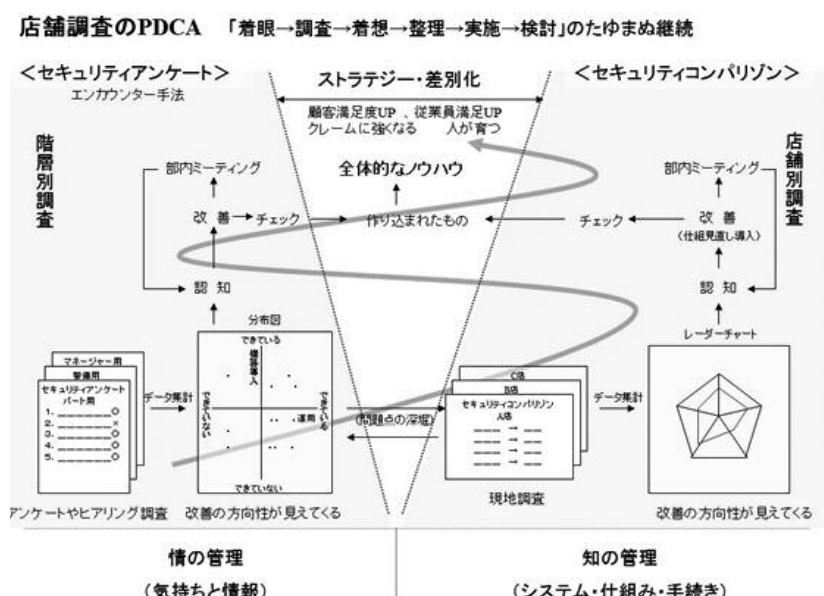
現在、店舗の防犯診断をしているセキュリティコンサルタンツ企業が10社ほど存在するが、それと比べると、小売業のストアサポート部等の部署の方々の参考になれば幸いである。なお、「情」と「知」の管理に関する方は、『情』と『知』のリーダースhip管理者のための『二大成功原則』(童門冬二著)をお勧めする。

2003年11月イラクへ派遣されていた日本人外交官2人が、日本大使館の車両で移動中、何者かに射殺された。同年12月イラク人道復興支援特別措置法に基づきイラクの人道復興支援活動にあ

「万引き対策百種」セキュリティコンパソン (パルティストアとA店・B店とを比較)



は対処療法であって抜本的な改善になっていない。一時的な改善が行われても、継続的につながっていかないという課題に直面することになる。実際、次のシーズンもダメージ付けはされなかった。原因はコミュニケーションにあるのではないか？私は何か大切なものを見落としていることに気が付いた。



この管理が好きな人は戦略論を好むがゆえに、この指標だけで相手を追い込んでいく。反対に情の管理だけが論者が悪い。論理性が乏しく、行き当たりばったりになり、そうならないために戦術をもつて、関係者との対話を継続しながら情の管理をおこなう。絶望に苛まれたら、この管理で戦術をもつて、関係者との対話を継続しながら情の管理をおこなう。絶望に苛まれたら、この管理で戦術をもつて、関係者との対話を継続しながら情の管理をおこなう。

2003年11月イラクへ派遣されていた日本人外交官2人が、日本大使館の車両で移動中、何者かに射殺された。同年12月イラク人道復興支援特別措置法に基づきイラクの人道復興支援活動にあ

たらせることが閣議決定した。憲法の前文に「われらは全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免(まぬ)かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて……」とある。それを履行するためにイラクに自衛隊を派遣することになった。

物心がついた時からの悪友がいる。悪友はこの時期、ある提案文を内閣官邸にメールで送った。それは「日本は戦争放棄の国であり、自衛隊は、戦争に行くわけではない。現地での給水や医療、道路や橋や下水道などの復旧、病院や学校の修理、食料や衣服、医薬品や子どもたちの勉強道具などの生活物資の輸送など、人道復興支援をするために行くこと。日本は先の大戦で2つの原則、各地の空襲で国土の多くが灰燼に帰した。戦後、多くの世界の国々から支援があり、そのお陰で復興できたこと。だからこそ、我々は支援に行くのだ。

子どもの笑顔を未来の夢を取り戻さなければいけないということをイラク全国万引犯罪防止機構(通称：マンボウ)万引撲滅のための戦略を本気で提言実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人

文・事務局(稲本義範)